

表現技法:試験対策資料__教授資料 学生番号:_____氏名:_____

Q1:グループ討議法のメリット

グループ討議法では、メンバー同士の相互作用を通して、各メンバーの持つ知識・経験・長所・持ち味などが互いに刺激しあって、相互啓発の効果を生むことが期待できる。

Q2:ブレイン・ストーミングBSの実施上の4つのルール(約束)

- ①自由^{ほんぽう}奔放 (奔放な発想を歓迎し、とっぴな意見でもかまわない)
- ②批判^{げんきん}厳禁 (各個人のアイデアに対して、批評・批判することは慎む)
- ③量を求む (数で勝負する。量の中から質の良いものが生まれる)
- ④便乗^{びんじょうはってん}発展 (出てきたアイデアを結合し、改善して、さらに発展させる)

Q3:KJ 法の手順

STEP1:情報収集とカード化:ブレインストーミング(ブレスト、BS)などで収集した情報を、名刺大のカードに一件ずつ記入する。

STEP2:グループ化:カードの内容の類似性や親和性によって、あまり深く考えず直感的にグループ化していく。

STEP3:表札カードを作る:グループの内容を要約したカード(表札)を作る。グループが少なくなるまで、STEP2から繰り返す。

STEP4:図解と文書化:大きな紙にカードを貼り、グループごとに線で囲む。この図解(特性要因図:フィッシュボーン)を見ながら分かったことを説明したり、必要なら文章にする。

表札

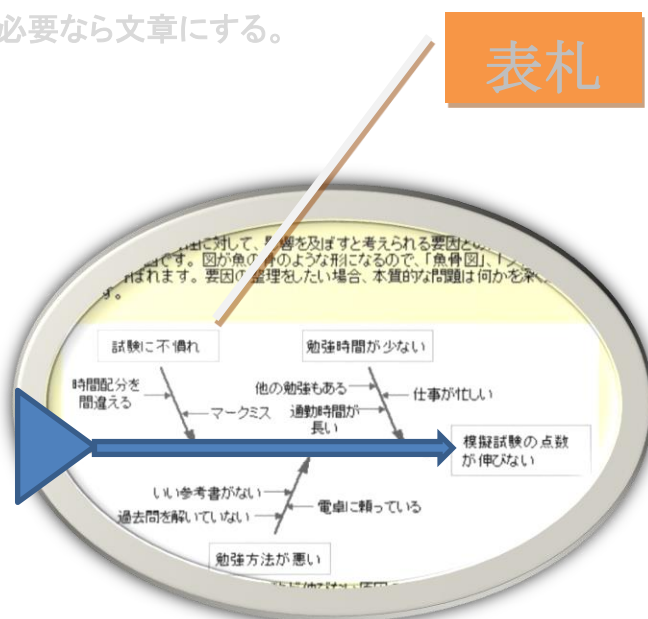
Q4:特性要因図(フィッシュボーン)作成手順

STEP1:魚の頭の部分(特性)に問題となっている状況や解決したい課題特性を書く。

STEP2:大きな背骨を1本魚の頭に向かって→を引く。

STEP3:大きな要因を3~6個考えて、それらを「大骨」の先端に書く。

STEP4:大骨の要因を考えて、それを「中骨」、「小骨」に書く。



STEP5 :最後にそれぞれの中骨・小骨に対して

原因や解決策を考えて書き、マトリックス図の作成のことも考えて書く。

Q5:問題解決のプロセス

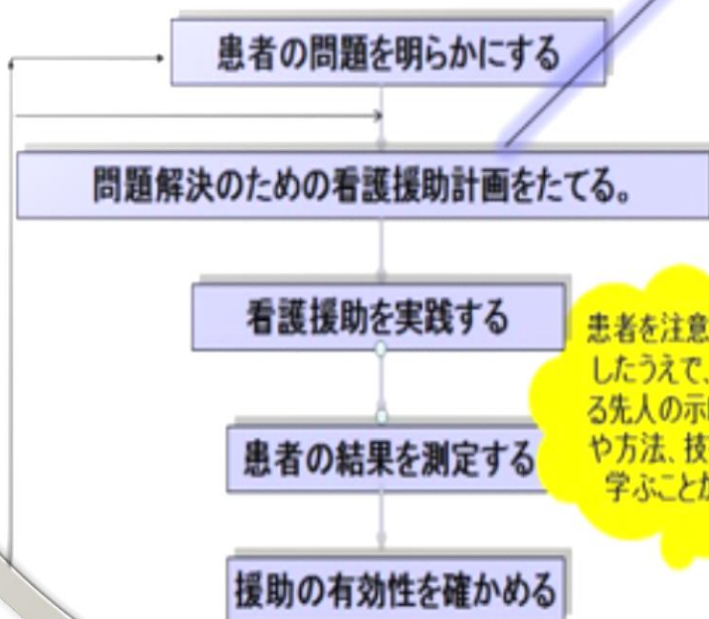
職場で管理・改善を進めていくとき

問題点を見出す:改善の目的をよく考えて、どの問題から取り上げてゆくかを決める。

原因の洗い出し:どの問題から手をつけるかが決まると、その問題に影響を与えていると思われる原因を洗い出す。

看護現場の問題解決のプロセス

KJ法、ブレinstーミング、特性要因図の技法を活用する。



患者を注意深く観察したうえで、経験ある先人の示した理論や方法、技術などを学ぶことが大切!

Q6:報告書・レジメの構成**① 題設定の経緯と背景**

社会問題の中で、皆さんがなにを感じ、いくつかある問題の中からなぜそのテーマを選んだのか、その経緯を解り易く文書で表現します。

書き出しは、私たちが「なぜ……のか？」を選んだ理由は、……の原因が何であるか疑問に思ったからである。この解決策を導きたくこの問題を選択した、と書くように指示します。

② 問題が生じる原因の分析+フィッシュボーン

上記の理由で設定したテーマについて、その問題が生じる原因をどのように分析し、原因としてどのような内容が挙げられたのかフィッシュボーンを用いて紹介するとともに、骨同士の関係やその図全体を観て、この特性の原因をどこにあると考え分析したのか、その経緯を解り易く表現するように指示します。

書き出しは、BSで、「……」がいったいどのような原因で起こっているのかに視点を置いてみると、その根拠が見えてきた。以上の要因を整理しているうちに、「……」の原因が大きく・つの表札に集約されていることが分かった。これら・つの要素(・、・、・、・、・、・)が複雑に関連し、それぞれの構成要素をもとに「……の問題」が発生する原因を分析した、と書くように指示します。

③ 問題解決のための具体的方策の分析+マトリクス図

フィッシュボーンを通して出された原因に対し、再度BSを用いて問題解決をするためには具体的に何をしたらよいか議論します。その結果出された具体的解決策をマトリクスにまとめ、それぞれのメリット、デメリットを考察します。

④ 問題解決策の選定とまとめ

マトリクスによって導かれたそれぞれの解決策を選択し、実行に移すとよいか、決定した理由とともに、その方法を使うことによって問題点がどう変化することを期待しているかも含めて述べるように指示します。また、取り上げた問題に対して、この議論によって明らかになったこと・気づいたことを紹介するように指示します。

